

傷

西田友和

生きるほどに

傷の数は増え

時とともに

深まる傷すらある

時が解決してくれる？

軽はずみなことを言うな

傷口は今なお柔らかく

暖かな血が滲む

生きるとは

争うでも

抗うでもなく

ありのままを忍ぶこと

聞こえるか？

傷の最も深く

その奥の遙か遠くから

響く微かな息吹

耳を澄ませるんだ

聞き洩らさぬように

声なき声の意味を

いつか知る日のために